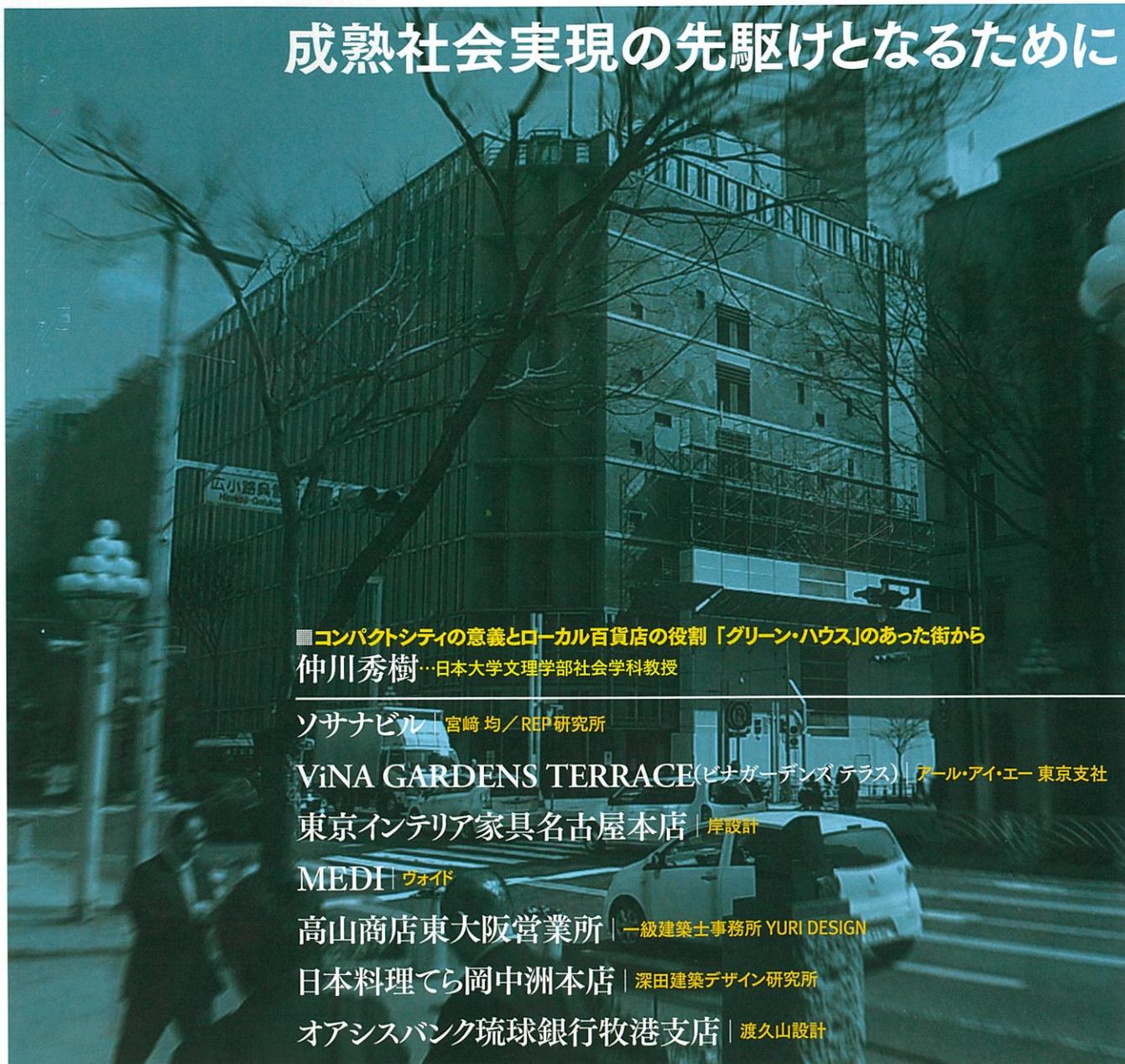


社会を映し出す鏡

成熟社会実現の先駆けとなるために



■コンパクトシティの意義とローカル百貨店の役割「グリーン・ハウス」のあった街から
仲川秀樹…日本大学文理学部社会学科教授

ソサナビル | 宮崎 均 / REP 研究所

VINA GARDENS TERRACE (ビナガーデンズ テラス) | アール・アイ・エー 東京支社

東京インテリア家具名古屋本店 | 岸設計

MEDH | ヴォイド

高山商店東大阪営業所 | 一級建築士事務所 YURI DESIGN

日本料理てら岡中洲本店 | 深田建築デザイン研究所

オアシスバンク琉球銀行牧港支店 | 渡久山設計

老舗デパートの丸栄(p.35参照)。
手前も解体が決まった明治屋ビル。
撮影:2019年3月1日

マルシェ、バザール、楽市楽座…。古来より洋の東西を問わず、「市場」は生活のための装置だった。しかし、西洋では産業革命以来国内ではまかなえない欲求を充足させるため、絢爛たる万国博覧会が開催され、消費欲の拡大がはかられてきた。19世紀中葉、その恒久的施設として都市に登場したのが百貨店建築である。現代日本では、巨大ショッピングモールの登場により、ながらく商業施設の王道を歩んできたデパートだけでなく、地域の小売業も衰退の一途をたどる。その結果、買い物難民という現象が切実な問題となっている。災害復興や過疎化対策に向けてのコンパクトシティ構想に、まちづくり拠点としての商業施設は欠かせない。近年はコンビニなどが公共サービスの一部を担っているのも現実である。ここに挙げた作品とともに、これからの商業施設を展望する。